**中禅寺湖の魚**

中禅寺湖はスポーツフィッシングのメッカで、マス、イワナ、カワマス、レイクトラウト、ニジマスなどが釣れる。日本の主要な湖の中では最も標高が高いが、最近まで魚が全くいなかった。

約2万年前、男体山の火山活動によって川がせき止められて流れが変わり滝ができ、湖が形成された。北西から湖に流れ込む水には魚はおらず、97メートルの華厳の滝があるため、大谷川の上流から東への魚の遊泳を妨げている。

8世紀後半から奥日光は山岳信仰の修行の中心地となり、1871年までは入山や活動に制限があったあ。1873年には、地元で育てたイワナを湖に放流し、最初の放流が始まった。1874年には、コイ、フナ、ウナギ、ドジョウが追加された。1881年にはロシアから白身魚が輸入され、その後数年間は琵琶湖や北海道からトラウト、サケ、ヒメハヤなどの国産魚が輸入された。

スコットランドの商人であり、フライフィッシング愛好家であり、長年日本に住んでいたトーマス・グローバー(1838-1911)は、スポーツフィッシングに適した魚をこの湖にストックすることに尽力した。グラバーは、1902年と1904年にコロラド州からブルック・トラウトを輸入するための資金を提供した。